



図書館友の会だより

第89号

令和8年4月1日

益子図書館友の会発行

私達は図書館建設をめざしています

益子図書館友の会 代表	日渡君枝	72-5745
益子町中央公民館図書室		72-3101



読んでびっくり、語って楽しい、日本の昔ばなし集の決定版をどうぞ!

NHK朝の連続テレビ小説「ばけばけ」を、毎朝楽しく視聴しました。ラフカディオ・ハーン（小泉八雲）の『怪談』に出てくる「むじな」や「のっぺらぼう」・「ろくろ首」などは、人々が誰かに話して聞かせる事によって伝わり残ってきた民話であり、恐ろしくも面白い話と言えます。民話には他にも悲しい話や楽しい話があり、興味深く関心を寄せていました。そんな折、小澤俊夫監修・小澤昔なばし研究所編、日本の昔ばなし集2冊が岩波書店から刊行されたのを知り、早速購入して読みました。



一冊目は、本の帯に記された言葉で言えば、「失敗譚やおかしな話が大集合。人生、何が幸いするかわからない」『人と人とのにんまりする話』です。愚かに見えた人が実は賢かった？失敗が成功に転じ、怠け者が大活躍？等々……。話を聞いた子どもの目が輝き、元気と勇気が湧いてくる話が100話載っています。

二冊目は、「犬や猫に、助けられたり助けたり。すずめや亀も、大奮闘」の99話載っている『生きもののおどろきの話』です。ご存じの「えとの話」・「妹は蛇」など、犬・猫・鼠・狸・狐・雀や蛇が、敵討ちや恩返しと大奮闘です。



全体を通して大変わかりやすい内容となっているのは、日本列島全土を対象に、20数年かけて集録した約2,000話の中から精選した昔話であり、あえて共通語、いわゆる標準語で書いてあるからです。土地の言葉には説明文があったり、尺貫法による表記については換算の説明がついていたりして、より理解しやすくなっています。ぜひご一読をおすすめします。
(会員 日渡守)

～裏面もごらんください～



こんな本がありますよ ~友の会おすすめ本~



『「イーハトーブ

“図書館”戦争」従軍記』

著者 増子義久

発行所 論創社

『ナチスから図書館を守った人たち一囚われの司書、詩人、学者の闘い』という本を読んでいた著者の元に、飛び込んで来た新図書館建設問題。市当局が推し進めようとする図書館構想とそれに激しく、異議申し立てをした著者をふくめた市民運動側との5年間にわたる攻防の記録。まえがきの中に出てくる「独裁者はいつの時代でも『文化』（知性）に敵対する存在だ」という言葉が妙に心に響いてくる。

『風を織る』

針と剣 縫箔屋事件帖

著者 あさのあつこ

発行所 実業之日本社

《針と剣》シリーズ『風を纏う』・『風を結う』・『風を紡ぐ』に続く4作目。

江戸を舞台とした時代小説。登場する人物の悩みや苦しみは、現代に生きる私達の抱いている思いと何ら変わることはない。テンポ良く進む会話に、早く仕事に戻らなければと思う心がつい負けてしまう。疲れた心を癒やす甘納豆のように後を引く作品。



『昭和万葉集』巻10

発行所 講談社



昭和元年から昭和50年までの変化の激しい時代に作られた短歌を、時代を追って分類配列した歌集。変化の激しかった時代をさまざまな思いを持って生きた人達の生活の記録とも言えるべき作品が並ぶ。

昭和54年に発行された巻10には、益子町栗崎に住む山川俊子氏(旧姓岩崎)が27歳の時に『日本短歌』という短歌雑誌に投稿した素晴らしい作品が掲載されている。



◎中央公民館図書室で購入してほしい雑誌がありましたらお知らせください。電話72-5745(日渡)

図書室カレンダー 4月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

5月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

6月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

1 の日は午後5時まで開館

■ の日は休館

1 の日は午後7時まで開館

○ の日は益子町子ども読書の日・読み聞かせの日(ましココハウス)

~表面もごらんください~